

小林市立永久津小学校・永久津中学校

令和6・7年度 小林市教育委員会小中一貫教育推進モデル校「知育」研究公開

《研究主題》

主体的に学び、思考力や表現力の向上を目指す児童生徒の育成
～義務教育9年間を見通した個別最適な学びと協働的な学びを通して～

令和7年11月12日(水)

〈日程〉

永久津小学校

時刻	13:20-13:40	13:40-14:00	休息・準備	14:10-14:55	休息・準備	15:10-16:00	16:00-16:10	16:10-16:20
時間	20分	20分		45分		50分	10分	10分
内容	受付	研究説明		公開授業		授業研究会	指導助言	閉会行事
会場	体育館前	体育館		体育館		体育館		

永久津中学校

時刻	13:20-13:40	13:40-14:00	休息・移動	14:10-15:00	休息・準備	15:10-15:35	移動	15:40-16:15	16:15-16:20
時間	20分	20分		50分		25分		35分	5分
内容	受付	研究説明		公開授業		授業研究会		全体会	閉会行事
会場	体育館前	体育館		各教室		各教室		体育館	

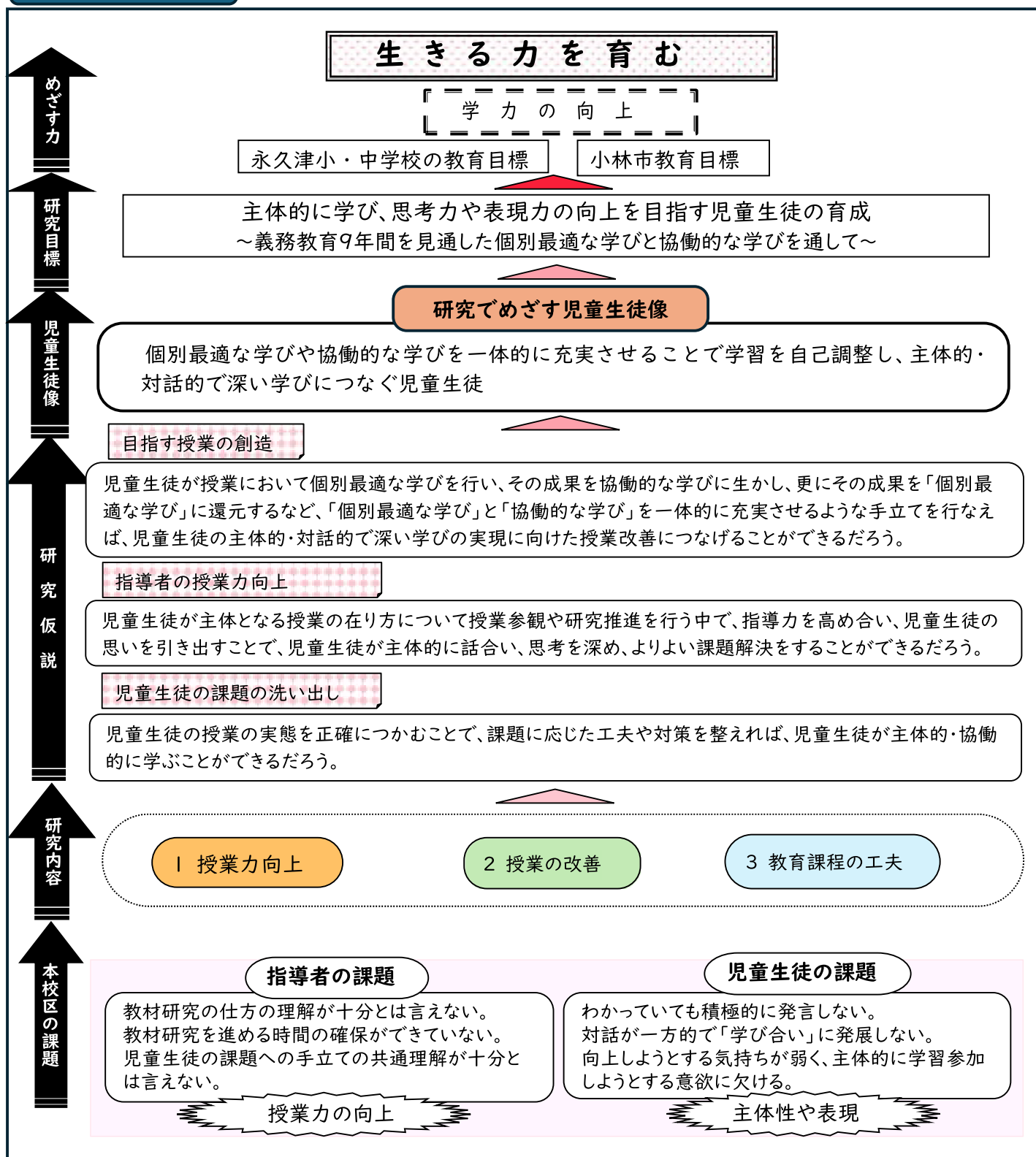
〈公開授業〉

学校	学年・組	教科	単元	指導者	時間	会場
永久津小	3年1組	国語	すがたをかえる大豆	川崎 直幸	14:10-14:55	体育館
永久津中	1年A組	数学	変化と対応	添田 裕史	14:10-15:00	1年A組教室
	2年A組	英語	Program 6 High-Tech Nature	池島 尚子		2年A組教室




〈授業研究会等〉

学校	内容及び日程	会場
永久津小	1 授業研究会15:10～16:00 ※全体会 <協議題> 児童生徒が主体的に学び、思考力や表現力の向上を目指す授業づくりはどうあればよいか。 2 指導助言16:00～16:10 3 閉会行事16:10～16:20	体育館
永久津中	1 授業研究会15:10～15:35 2 全体会 15:40～16:15 <協議題> 児童生徒が主体的に学び、思考力や表現力の向上を目指す授業づくりはどうあればよいか。 3 閉会行事16:15～16:20	1 各教室 2 体育館 3 体育館

研究の構想図

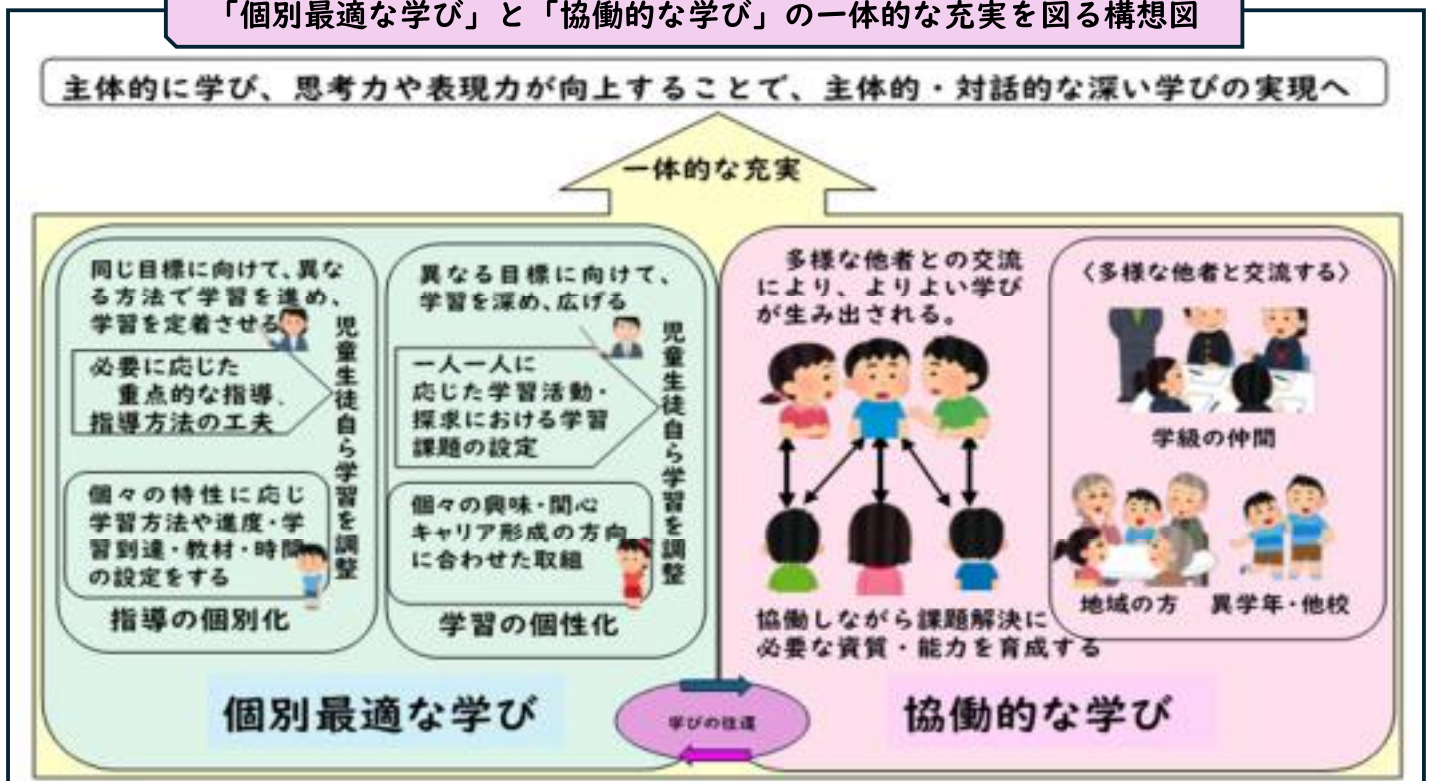


小中合同の研究内容

授業力向上	授業の改善	教育課程の工夫
<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態把握 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 	 <ul style="list-style-type: none"> 学習過程の工夫（ICT活用を含む） 	<ul style="list-style-type: none"> 教材研究の充実 学習定着時間の活用 話合いのスキルトレーニング
	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観チェックシート活用 職員の協働による授業づくり 学びの往還のある指導 	

研究の基本的な考え

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る構想図



ポイント①

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業力向上



「個別最適な学び」に主体的に取り組み、「協働的な学び」において自らの意見を積極的に表出しながら思考力や表現力を高める指導の在り方について研究実践する。

ポイント②

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還させる授業の改善



一単位時間や単元計画において「個別最適な学び」と「協働的な学び」を効果的に構成し、それらの「学びの往還」を繰り返しながら深い学びへとつなぐ授業の改善を図る。

ポイント③

教育課程の工夫～授業の下支えとなる教材研究の時間の確保等



本校区の課題を解決するために、教育課程の工夫を行うことで、教材研究の時間の確保や児童生徒の学び合いを深める一助としていく。

教材研究を協働的に進めたり、基礎学力を高めるための時間の確保を行ったりする。

これまでの実践

小学校5年国語科 説明文「見立てる」

筆者の主張が総括型の文章により構成されていることをとらえる。

- 学びを選択しながら自分の考えを明確にしておくことで、協働的な話合いが活発に展開された。
- 終末で個別最適な学びへ往還して習熟を図る活動を取り入れたことで学習の定着が図られた。



小学校6年国語科 説明文「時計の時間と心の時間」

文章の中の事例の取り上げ方について筆者の意図を考える。

- ICTのポジショニング機能を使うことで、自分の読み取りや考えを明確にする活動に主体的に取り組んだ。
- 話合いをつなぐための話型を活用することで、課題解決のための話合いに深まりが見られた。



中学校2年社会科 地理「流山市の人口増加について考える」

人口増加の要因について資料や学習ツールを使って考える。

- 用意された複数の資料を、自分で選択し考えることで、自ら学ぼうとする態度を養い、自身の考えを深めるための学習に繋げることができた。
- 思考ツール（Xチャート、Yチャート）を活用することで、さまざまな情報を収集・整理し、根拠を明確にして意見を発表することができた。



中学校2年理科 電流のはたらき「電圧と電流の関係を調べよう」

電圧を大きくすることによる電流の変化を実験で調べる。

- 班での話合い活動を取り入れることで、手順を確かめたり、実験結果の予想等を述べたりする等、協働的な学びが展開された。
- 実験データのグラフ化において「グラフ用紙に記入」と「Excel入力で自動的にグラフ化」の二つから選択できるようにしたことで、確実に課題解決できる方法を生徒自らが考え、取り組むことができた。



研究の成果と課題

- 児童生徒は、学びの往還を通して学び方を学ぶ力を身に付け始め、振り返りを重ねることで次の学習での目標設定や学習方法の選択ができつつある。
- 対話的な話型の活用により話合いが続き、児童生徒主体の授業が進むことにより、級友と学び合おうとする意識も高まった。
- 指導者が個別最適な学びと協働的な学びの場面を明確にイメージして授業に臨むことや、限られた時間内で児童生徒が主体的に学ぶイメージをしっかりとつことが大切である。
- 習得した知識や技能を生かした発信の場の設定や工夫、効果的な学びの追求などについて、学びを支えるICT機器の活用の在り方と共にさらに研究を進めていく必要がある。

永久津小学校

吉井秀一

河野洋一

湯川昌一

永久津中学校

長尾泰則

黒木克典

玉井教広

押方道伸

大脇朝子

黒木里奈

小野勇

坂本萌

阪口陽子

亀田さとみ

井上由美

穴井愛

松下良子

宮田弘子

研究同人

新屋真由美

戸高明美

前田侑

池島尚子

宇都繁幸

東喜功子

奥畑薫乃

矢部博昭

宮田優志

柴田光瑠

川崎直幸

天辰千代子

佐藤慎也

平川康子

江藤愛

添田裕史